



木造大日如来(金剛界)坐像

～ 東京都指定有形文化財（彫刻）～

（指定 ： 昭和 37.3.31）

光輝山龍見寺

◇散歩のみどころ

湯殿川の上流から散歩する約五、六kmの行程で、拓殖大学からスタート。キャンパス内の湯殿川を堰き止めた下池は見事である。

湯殿川沿いを暫く歩き、こうぼう様を拝し、更に下ると御霊神社に出る。この神社は鎌倉権五郎景政の館があつたところとして有名である。

この神社から少し南へ行くと、中性の終焉近くに闊歩した後北条氏照の家臣近藤出羽守助実が開基とされる浄泉寺に着く。

また湯殿川に戻り、出羽守の子孫といわれる近藤家を訪ねたあと、川を南下。都指定有形文化財の大日如来坐像が安置されている龍見寺に出る。散歩コース中一番の見所である。

さらに、不動様を拝み北へ。古代人の営みが解る国指定の棚田遺跡公園へと続く。

そして最後の十二社神社、二軒在家を散策し、散歩を終える。

●館の由来

江戸時代から明治時代にかけての村の名前で、多摩郡柚木領にあり、高札場は小名四ッ谷にあった。

鎮守は御霊社で、この地に鎌倉権五郎景政の館（やかた）があつたことから、ともいわれている。

また戦国時代には、北条氏照の家臣近藤出羽守の館があつたとも伝えられている。

明治二十二年（一八八九）横山村の大字となる。



散田町方面から館町を望む

①湯殿川

館町の南西、多摩丘陵の起点にあたる小峰（追分と呼ぶ）を水源とし、多摩丘陵と子安丘陵の間を東に流れて、長沼町で浅川に注ぐ。

長さは九・一km、流域一四・五km²小比企川、時田川とも呼ぶ。

館町東北部で殿入川、寺田町で寺田川、片倉町で兵衛川と合流する。

「皇国地誌」によれば、水源の地名を堂側といい、殿入川と合流するまでは宮川と呼んでおり、湯殿川の本流は殿入川とされている。水源地一帯は拓殖大学の校内地と、さらにその奥地の水源地に源を発している。

尚、龍見寺境内大日堂の脇には心字池が作られており、そこから湯殿川本流の源の一つとして水がこんこんと流れ出ている。





湯 殿 川 上 流

② 拓殖大学

東京都文京区に本部を置く私立大学。海外などで活躍する人材養成のため、明治三十三年（一九〇〇）桂太郎が創立した台湾協力学校が起源。明治三十七年（一九〇四）専門学校となり、朝鮮の京城に分校を設置。大正四年（一九一五）東洋協会植民専門学校と改称、大正七年（一九一八）大学令による拓殖大学となる。その後さらに改称した。

昭和元年（一九二六）再び拓殖大学に戻した。卒業生の多くが植民地の経営に従事。昭和二十四年（一九四九）新制大学に移行。

昭和二十一年（一九四六）から昭和二十七年（一九五二）紅陵大学と称し、昭和二十八年（一九五三）以後、現在の名称としている。

昭和五十二年（一九七七）四月一日八王子校舎を開校、東京茗荷谷校舎と二つのキャンパスを持つ、大学院を含めた総合大学である。



拓殖大学八王子キャンパス全景
(拓殖大学パンフレットより)



拓殖大学

●調整池

拓殖大学正門からバス降車口に行く左側に大きな溜池がある。この池は湯殿川の上流から流れて来る川を堰き止めて造られている。大学ができる以前は、湯殿川が流れていたが、今は暗渠となりその上に駐車場やグラウンド等が造られている。

また大学内のさらに上流の湯殿川にも溜池が造られ、双方の池は大雨による洪水の調整役をしている。但し、飲料水には不適當という。



下調整池



上調整池

●恩賜記念館

明治四十五年（一九一二）四月二十三日明治天皇から御下賜された恩賜金により、大正三年（一九一四）三月に建設された恩賜記念講堂が、創立百周年を記念して、平成十二年に恩賜記念館として復元したもの。内部には、記念講堂をはじめ、本学の歴史的な資料を展示する歴史資料室、マルチメディア閲覧室及び会議室等がある。桂公の銅像、館の銘板は、当時の恩賜記念講堂のもの。



記念館脇の池



恩賜記念館

③ こうぼう地蔵 (真鍮製)

地蔵本尊は、弘法大師の作と伝えられ、館村の名主甚右衛門が創建したといわれている。

ところで、梅元庵の厨子に安置されている地蔵本尊は、旧家の李代(もくだい)家にあつたものを、昭和五十五年頃今の場所に移したもので、昔、京都の先祖がこの地に来たとき、一緒に持つて来たといわれている。首をかしげ頬杖をした姿は、何ともいえぬ愛くるしさを感じる。

台座の下には「武州多摩郡上館村」と記されている。



こうぼう地蔵



こうぼう地蔵尊のお堂



お稲荷様



庚申塔と祠



百箇所巡礼碑 (左) と地蔵尊 (右)



めずらしい多摩酪農
農業協同組合の建物



もくだい
奎代家の門



西明神橋



新しくなった湯殿川と西明神橋



御霊神社

④御霊神社

祭神 鎌倉権五郎景政
 創建 年代は不明
 例祭 八月二十日

一説には天正年間（一五七三）九
 一〇の創建と伝えられている。
 かつては御霊谷戸に法際して、五霊
 大明神と称していたが、現在地に遷
 座した年代は明らかではない。
 その昔、祭礼には旧暦の八月に神霊
 の迎え火を各々の家で焚く神事が行
 われていたという。



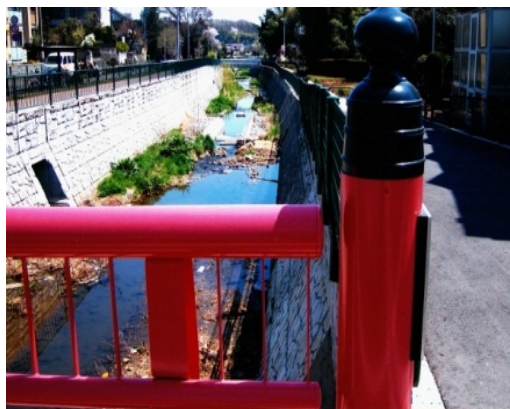
境内の力石



御霊神社本殿



境内の御神木舎



新しくなった湯殿川東側にかかる明神橋

●御霊社（参考）

川口町の川口川に沿って南へ行くと鎌倉権五郎景政を祀った御霊社がある。

石の灯籠一基には弘化四（一八四七）年末九月、願主大木松蔵と刻されている。

境内には天満宮、御霊社の小祠が左右に祀られている。社前には綺麗な湧水池がある。

この池には「片目うなぎ」が住むという伝説がある。戦の折、敵が放った矢が景政の目に刺さり、片目になったという伝説で「御霊うなぎ」ともいう。



川口町の御霊社

●御霊谷川（参考）

北高尾山陵の最東端にある小峰を水源として東北に流れ、元八王子町三丁目の宮の前で、城山川に合流している川である。長さ〇・八km、流域は一・三km。
「武蔵名所図会」には御霊谷戸とあり、鎌倉の御霊神を移したとも伝えられている。



元八王子三丁目を流れる御霊谷川



境内の地藏尊と子授け石



御霊谷川近くの稲荷神社

●御霊山と御霊谷（参考）

館町ではないが、「皇国地誌」によると元八王子村の村誌に出ている山で、御霊谷より西南に登って行く山だという。標高三四二m。

また、元八王子町の旧小名・小字。「ごりやと」とも呼んでいた。

「新編武蔵風土記稿」には五霊谷とも書かれている。

御霊谷の御霊谷川流域沿いには稲荷神社がある。



館町の御霊神社正面

⑤ 釈尊山浄泉寺

宗派 曹洞宗・御霊山

本尊 南無釈迦牟尼仏坐像

開山 嶽應儀堅禅師

開基 近藤出羽守助実

開創 平安時代後期

応徳三年（一〇八六）頃

近藤出羽守助実（資実）は北条氏照の奉行をつとめ、天正十八年（一五九〇）八王子城落城の際に討ち死にした武将である。この寺は鎌倉権五郎景政（武将）がこの地に本拠を構え戦国時代に入ると近藤砦と呼ばれ、御霊山浄泉寺城と称されていたいわゆる武将の館であった。

寺のすぐ近くには鎌倉権五郎景政を祭る御霊神社がある。

浄泉寺所蔵の半鐘は加藤鋳物師の一人加藤与兵衛重次の作と伝えられている。



近藤出羽守助実（資実）の墓



浄泉寺



土塁の跡か？



近藤出羽守の墓



本堂脇の地藏尊、庚申塔、念仏供養塔などの石仏群

⑥出羽守の子孫近藤家

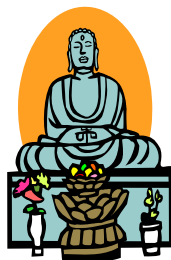
湯殿川の明神橋を渡り、北野街道を東へ二百m程行った左側の奥（北山手）に近藤家があり、裏の栗畑奥に近藤家代々の墓が安置ある。

その一番左側に舟型地藏尊なのか不明な石仏と崩れている五輪塔があり、それが近藤出羽守助実を祀る墓ではないかといわれている。

また、石塔の脇の死者の事跡などをするした墓誌には七十二名の家臣の名が刻まれている。

墓誌は掛軸にも復元され、さらに仏壇の位牌には十人の戒名が追加されている。

近藤本家では、毎年お盆には墓誌を復元した掛軸を床の間に掲げ、御馳走や花を手向け、御先祖の霊を敬っている。





五輪塔と代々の石塔群



近藤出羽守助実の墓(左)・墓誌(右)



家臣名の墓誌



墓誌の掛軸を見るノリ子さん

⑦ 光輝山龍見寺 都

宗派 曹洞宗

本尊 釈迦牟尼仏

寺宝 木造大日如来坐像 圖

藤原時代末期・作者不明

開創 永徳年間(一三八一〜八四)

古くは日光山と号したが、慶安年間(一六四八〜五二)朱印を受けた際、光輝山と号するようになった。

「武蔵名勝図会」によると、元は、殿入にあつたという。現在地に移転した時期は不明。

この辺りは、かつて横山党が住んでいたとも伝えられる。前九年の役、康平五年(一〇六二)に、源頼義に従って奥州に行った横山経兼が、出羽三山のひとつ湯殿山から大日如来像を拝領し、この地に大日堂を建立して、これを安置したという。

大日堂は、現在の場所ではなく、今ある石段下の畑の中にあつたともいわれている。

お堂南側の「はけ」からは湧水が流れ出て心字池を作っている。またこの池は亀池ともいわれ、池の中島に弁天堂があった。

そしてこの湧水が、歴史的には湯殿川の水源といわれていた。

龍見寺入口には地藏菩薩、堂の階段下には名号塔徳本、地藏尊、石経塚などの石仏がある。



龍見寺



龍見寺入口の地藏尊



湯殿川水源といわれた亀池

●徳本上人の碑

宝暦八年（一七五八）から文政元年（一八一八）、念仏の唱尊者。紀伊国の生まれ、現在の和歌山県と三重県の一部。

徳本は二十七歳で仏門に入り、木食（もくじき）修行。その間に念仏を唱え、念仏聖として知られている。

文化十一年（一八一四）江戸に出て、小石川伝通院で布教、木魚と鉦を激しく叩く、独特の徳本念仏を広め、江戸を中心に近郷農村に念仏講を組織する。「石川日記」に文化十四年（一八一七）十一月十五日、徳本上人が大善寺を訪れ、十九日に去ったことを伝えている。

八王子地区（旧横山村）には文化十四年（一八一七）から文政七年（一八二四）までに、六から七ヶ所の名号塔が残されている。八王子でも独特の字体で書かれた石碑が現存している。龍見寺の徳本上人の碑もその一つで有名である。



石 経 塚



徳本上人像
徳本上人御勤誠聞語文政二年
「武蔵野」第十一卷第六号
より複写



大日如来像 (円成寺、奈良県)
藤原時代末期、木造



徳本上人の碑



みなみ野開発で龍見寺に移った石碑



大日如来堂

●木造大日如来

(金剛界) 坐像

昭和三十七年三月三十一日都有形文化財指定。

彫刻の大日如来の姿には、二種類ある。一つは、胎藏界の像で両手を膝上におき、腹前で法界定印を結んでいる。本像は金剛界曼荼羅と呼ばれ五仏宝冠をかぶり、蓮華座に坐し両手を胸前にあげて、智拳印を結ぶ姿にあらわされている。

本像の像高八八・五cm、寄木造、漆箔、玉眼（当初は彫目）条帛を懸け、裳を着けている。作者不明。

細身な体相、柔和な面相、大きく見開いた両眼、浅彫りの衣文など、藤原時代末期の様式をよく表しており、両足を組んだ膝の辺りの衣文などが美しく、南多摩地方における遺作として、都の文化財に指定された。

新編武蔵風土記稿には、

「大日は古へ羽州湯殿山遥拝のため勧請せしにて其始は今の堂前の畑中にある小塚の上に造立せりと今の地に移せし年歴等詳ならず、いかなるゆへにや慶安年中大日料五石の御朱印を御寄付ありしといへば、昔は、龍見寺この堂の別当等なりしならん」と記されている。



木造大日如来坐像



木造大日如来

⑧館町市民センター



館町市民センター

⑨不動堂

新編武蔵風土記稿、多磨郡之十五に次の記載あり。

「村の東字不動坂にあり、百姓源右衛門が屋舎の内なり、二間四方の堂にて、本尊は木の坐像長五寸許

傳云、武田信玄此像を今福某に授けしに、かの今福なるもの當村に土着して、つひに此所に安置せりと。

源右衛門は則今福某が子孫なりと云。信玄の麾下にて、今福浄閑齊・同求之助・同新左衛門などは諸記に見えし人なり。これらの一族にてもあるべし、されど名諱も傳へざれば詳ならず」

●不動尊（舟型不動明王像）

木の祠の中に祀っており、祠の梁に「昭和四十四年初不動 今福弘」と記載されていた。

この坂道は、不動尊が安置されていることから、不動坂という名前が付いたという。



お不動様？



不動堂



以前の舟型不動明王像



不動堂の脇に祀られている馬頭観音

⑩ 梶田遺跡（国指定）

八王子盆地の南を囲む小比企丘陵の一角に位置する遺跡からは、縄文時代中期中葉の竪穴住居跡四十五軒が発見され、全体で三百軒以上の存在が予想されている。直経約百五十mの環状に展開する典型的な集落形態を示し、環状の内側には多数の土壙群がみられる。国の史跡に指定され、学術的価値の高い遺跡である。



梶田遺跡

● 神谷原遺跡

梶田遺跡群の中のひとつの遺跡で、縄文時代の中ごろのものである。ここでは、中央に広場をもち、その広場を環のように住居がとり囲んでいるムラの跡のほか、たくさん土壙と、倉庫か集会所と考えられる大きな建物の跡も見つかっている。



神谷原遺跡

● 滑坂遺跡

八王子市南部地区の開発のため調査されたもので、縄文時代中頃の遺跡である。丘の頂きをとって囲むように、何年にも渡って住んだと思われる六十九軒の住居跡が見つかった。縄文時代のムラの全体を知るためには、大変貴重な遺跡である。



滑坂遺跡

先土器時代



土偶

・ 梶田遺跡

ポイント（左）とナイフ形石器（右2点）
梶田遺跡



縄文土器



・ 中期（梶田遺跡）



・ 中期（神谷原遺跡）



・ 中期（梶田遺跡）



・ 中期（神谷原遺跡）

⑪ 二軒在家と

十二社神社

梶田町一丁目

十二社神社

勧請 熊野本宮

祭神 伊弉諾神、伊弉冉神

熊野十二所神

開創 一五三二〜五五？ 詳細不明

再建 宝永五年（一七〇八）

文政十二年（一八二九）

例祭 八月二十七日

十二社神社は、この町の鎮守でもあり、江戸期には下梶田村の高札場があった。現在、神社境内は二軒在家公園となっており、公園の北斜面には弁天様が祀られている。神社正面の左側には庚申塔など古い石仏が安置されている。古くは、この近くが山田川の源流といわれている。

弁財天は、二軒在家の人により水神様として祀られていたという。二軒在家は梶田町の旧小名、小字

である。梶田町の西側の地域をいい、昔からこの地に住んでいた人を指している。



庚申塔などの石仏



十二社神社



二軒在家公園



梶田の弁天様

◎参考資料

- ・ 新編武蔵風土記稿
- ・ 武蔵名勝図会
- ・ 八王子事典
- ・ 八王子の歴史と文化
- ・ 八王子市史
- ・ 八王子発見、中島善弥 著
- ・ 旧横山村石仏調査報告
- ・ 図説歴史散歩事典
- ・ 拓殖大学パンフレット
- ・ 皇国地誌一三六・七・八・九
- ・ 鎌倉・古戦場を歩く 人物往来社
- ・ 奥富敬之・奥富雅子 著
- ・ 日本の歴史六 武士の登場
- ・ 竹内理三 著 中央公論社
- ・ 武蔵野 第十一巻 第六号
- ・ 八王子市郷土資料館資料
- ・ 昭文社地図
- ・ 八王子市地図
- ・ 八王子市観光マップ
- ・ インターネット各ページ